

# 健康通信

## 中耳炎ちゅうじえんについて



▲耳鼻いんこう科 医師 横田 志保

中耳炎はポピュラーな病気で、みなさんも一度はかかったことがあるのではないのでしょうか。中耳炎にはいくつ種類があり、起こる症状も多彩です。かかる頻度の高いものを挙げてご説明いたします。

### 急性中耳炎

急性中耳炎は中耳の感染症です。ほとんどが小児、特に3歳未満で発症します。中耳は耳管で鼻とつながっており、ここから細菌やウイルスが中耳に入るため急性中耳炎を起こします。大人と比較して小児の耳管は水平で広いため、感染を起こしやすいくなっています。プールや入浴で耳に水が入ったと

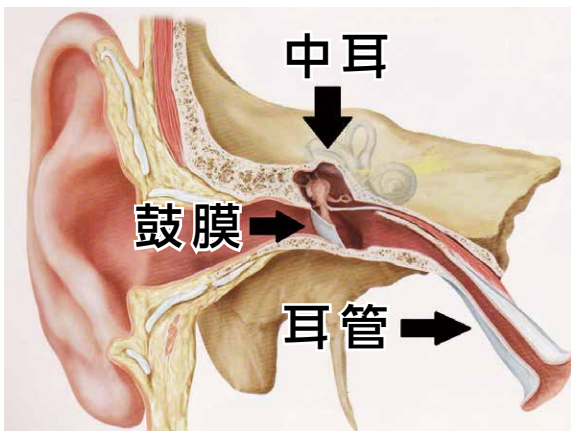
## 市民病院より

問合先 市民病院 (☎76・4131)

き中耳炎を心配して来院される患者さんもいらっしゃいますが、実際は耳の外から細菌やウイルスが入ることはないのです。中耳炎は起こりません。

症状で一番多いのは痛みです。小児の場合自分で痛みを訴えず、理由もなくぐずったり、耳を気にしてよく触ることで気づくこともあります。鼓膜を診察すると、赤くなり、膿が貯まっている様子が確認できます。

抗生物質や痛み止めの内服などで治療を行います。薬の治療だけで不十分な場合は、鼓膜を切開



して、中耳にたまっている膿を除去する治療法があります。

近年では、乳幼児から保育所などに預けられる子供が増えているため、入園直後から1〜2カ月間に感染を起こすことがあり、治りにくかったり感染を繰り返すことが多いようです。

### 滲出性しんしゅつせい中耳炎

中耳内は通常空気が入った状態で、換気を耳管で行っています。耳管の機能が悪くなり中耳に液体がたまって起こるのが滲出性中耳炎です。成人では、鼻やのどの感染がきっかけであることが多いですが、小児ではそれ以外に鼻の奥にあるアデノイドが大きくなり換気ができないため中耳炎が悪化する場合があります。

急性中耳炎との違いは、痛みがないことです。耳閉感、難聴が主ですが、小児の場合本人からの難聴の訴えがなく、テレビの音量を上げていたり、後ろから呼びかけても反応しないという理由が受診するきっかけになります。

たまった液体を排泄させるために内服で様子を見ますが、改善しない場合は鼓膜を切開します。切開

をしても繰り返すとき、鼓膜に換気チューブという5mmほどの大きさのチューブを入れて鼓膜と外とで換気できるような状態にします。小児では肥大したアデノイドを切除して換気できるようにする手術治療もあります。

繰り返し滲出性中耳炎を起こしている人の中で、鼻すすりが癖になっていたりの方がいます。やめるだけで改善しますので、お心当たりのある方は実践してみてください。

### 早めの受診が大切です

急性中耳炎や滲出性中耳炎がうまく治らなかつたり、治療をせず放置していると、治りにくい慢性の中耳炎になります。耳だれ、耳鳴り、聞こえの悪さなど、長く症状が続いているときは中耳炎が関連していることもあり、早めに耳鼻科を受診されることをお勧めします。

